

Ⅱ 成果の公表

1. 普及に移した、または普及の参考となる技術情報

平成30年度 第1回農業・農村の課題調整会議

平成30年8月22日(水) 農業研究開発センター 交流・サロン棟

1) 普及に移した技術課題

	課題名	担当
1	イチジク加工品の開発(イチジクグラッセ)	加工科
2	天敵製剤を利用したイチゴのナミハダニ防除体系	環境科

2) 普及の参考となる技術・情報

	課題名	担当
1	減圧吸水処理によるミョウガの種茎の休眠打破	育種科
2	コンテナを用いたミョウガの種茎増殖法	育種科
3	イチゴの有望3系統の食味に関するアンケート調査結果	育種科
4	小ギクにおけるキク矮化ウイルス抵抗性の遺伝様式	育種科
5	ダリア切り花の茎の長さが日持ち性に及ぼす影響	育種科
6	平坦向け多収性水稻品種の選定	育種科
7	イチジク加工品の開発(耐熱性ペースト)	加工科
8	イチゴうどんこ病における発病の品種間差異	環境科
9	イチゴに寄生するカンザワハダニに対する各種薬剤の感受性	環境科
10	オオタバコガに対する各種薬剤の感受性	環境科
11	キクに寄生するミカンキイロアザミウマに対する各種薬剤の感受性	環境科
12	露地ナスの土着天敵ヒメハナカメムシ類に対する数種殺ダニ剤の影響	環境科
13	県内産牛糞堆肥中のクロピラリド濃度実態	環境科
14	キクイムシ類によるキウイフルーツかいよう病の疑似症状	環境科
15	ダリアにおけるTSWVの適切な検定部位	環境科
16	ハウス柿の凹凸果(ゴリ果)の軽減対策	果樹・薬草研究センター
17	カキ「御所」の着果安定技術	果樹・薬草研究センター
18	ヤマトウキ短期育苗における最適播種密度	果樹・薬草研究センター
19	ヤマトウキの定植時地上部切除が活着及び生育に及ぼす影響	果樹・薬草研究センター
20	ヤマトウキ苗の掘り上げ後の保存方法	果樹・薬草研究センター
21	海外向け大和茶生産のための防除暦の検証	大和茶研究センター
22	茶苗生産・栽培マニュアル	大和茶研究センター
23	‘スーパーヴィジョン’は高糖度ホウレンソウ生産に適する	大和野菜研究センター
24	レタス、エダマメ、ブロッコリーのマルチリユースによる栽培体系の確立	大和野菜研究センター
25	ヤマトウキの湯揉み後の仕上げ恒温乾燥	大和野菜研究センター
26	カノコソウの定植時期と方法	大和野菜研究センター

2. 農業研究開発センター成果発表会

平成31年3月1日(金) 農業研究開発センター交流・サロン棟

テーマ:「5年間の研究成果－漢方・育種・加工・栽培－」

1) 成果の紹介(口頭発表)

米田健一	ヤマトトウキを中心とした薬用作物栽培技術の研究
大谷正孝	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発
西本登志	現地適応性試験を実施中のイチゴ新系統について
印田清秀	産地間競争に打ち勝つキク品種の育成
森岡 正	奈良県産柿から抽出した「柿タンニン」の加工食品への活用
井村岳男	DNAマーカーの活用によるウイルス等の診断技術・防除対策の確立

2) ポスターセッション

1	キク矮化ウイルス(CSVd)によるダリアの矮化症状
2	遺伝子解析技術を活用したカキ新品種候補の育成
3	奈良に歴史的ゆかりのある遺伝資源の保存と活用
4	出荷前施肥による花壇苗の日持ち性向上
5	片平あかねと結崎ネブカの機能性研究
6	水田の耕作放棄地の再生と利活用
7	小麦「ふくはるか」の素麺(そうめん)加工適性の向上
8	奈良で自作できるお茶の苗づくり
9	県特産品のイチジクを用いた加工品開発～イチジクグラッセ～
10	新しいカキ加工品の開発 ～糖蜜漬け～
11	片平あかねと大和茶を活用した彩りドレッシングの開発
12	黒大豆エダマメの9月どり作型の確立
13	オランダの農福連携の取り組み

3) 展示・試食

展示	アシストスーツ、ヤマトトウキ、ミシマサイコ、柿糖蜜漬け、イチジクグラッセ、柿ダマ
試食	イチゴ、やまと甘なんばんスムージー、片平あかねと大和茶の彩りドレッシングを使った料理

4) ポスター交流

磯城野高等学校
研究統合本部参加研究機関

3. 刊行物

【奈良県農業研究開発センター研究報告 第50号 2019.3】

[原 著]

西本登志・皆巳大輔・安川人央・堀川大輔・東井君枝・矢奥泰章・佐藤卓也・吉田裕一	イチゴの促成栽培における、花卉が完全に開く前にミツバチが訪花するために生じる雌ずいの損傷とそれに伴う奇形果発生、ならびに花粉媒介昆虫としてのヒロズキンバエの利用	50:1-10(2019)
西本登志・瀬戸路生・森田弥宏・奥谷晃弘・東井君枝・矢奥泰章・皆巳大輔	イチゴのポット育苗における吸水ポリマーシートの利用	50:11-18(2019)
佐野太郎・木矢博之・米田祥二・神川 諭	レタスとエダマメの連続栽培後の畝とマルチを再利用したブロッコリーの栽培方法の検討	50:19-29(2019)
虎太有里・仲 照史・後藤丹十郎	9~10月の冷蔵処理によるプリムラ・ポリアンサの開花促進	50:31-37(2019)
米田健一・浅尾浩史	ヤマトトウキ (<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa) 短期育苗における施肥量と栽植密度の影響	50:39-44(2019)
石川亜希・濱崎貞弘	異なる品種のカキ果実を用いたシロップ漬けの品質特性	50:45-54(2019)

[短 報]

浅尾浩史・西本登志	イチゴ‘古都華’の成熟過程における糖代謝酵素遺伝子の発現	50:55-57(2019)
中嶋大貴・辻本直樹・仲 照史・北條雅也	ダリア切り花の茎中糖含量と日持ち日数の品種間差	50:58-62(2019)
虎太有里・仲 照史	夏季の間欠冷蔵がプリムラ・ポリアンサの生育と開花に及ぼす影響	50:63-65(2019)
市川胤記・林 良考	カキの加温栽培におけるペレットボイラーの実用性評価	50:66-72(2019)
大谷正孝・浅尾浩史	保温トンネルを利用したヤマトトウキの直播栽培	50:73-79(2019)

[研究ノート]

小林 甫	中国における薬用作物の栽培及び流通の現状について	50:80-87(2019)
------	--------------------------	----------------

【農業研究開発センターニュース第154号 2018.6】

薬用作物ヤマトトウキの株幅を基準とした生育指標の開発
機能性成分カプシノイドを含有するトウガラシの新品種‘やまと甘なんばん’
ハウス柿の通称「ゴリ果」の発生原因について
県特産品イチジクを用いた加工品開発
ダリアにおけるトマト黄化えそウイルスの植物体内分布の解明
ソルガムを用いた土壌還元消毒によるホウレンソウ萎凋病の防除

【農業研究開発センターニュース第155号 2018.12】

クマザサ切り葉の品質保持技術
結崎ネブカと片平あかねの機能性研究
ミカンキイロアザミウマに対する各種殺虫剤の効果
無被覆でも色合いの美しい粉末茶生産
難裂莢性のダイズ有望品種‘サチユタカA1号’
イベントを開催しました

4. 知的財産権の保有状況

特許権等の名称	発明 考案者	出願 年月日	登録年月日 登録番号	共同開発 機関
柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン	濱崎貞弘	H16. 3. 24	H22. 4. 23 特許第4500078号	
切り花収穫機	仲 照史 角川由加 小山裕三	H21. 10. 13	H26. 11. 7 特許第5640270号	農業・食品産業技術総合 研究機構 みのる産業(株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した圧カスイング法による園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 堀川大輔 後藤公美 佐野太郎 仲 照史	H22. 7. 9	H26. 7. 18 特許第5578469号	産業技術総合研究所 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)
植物生育環境調節装置	西本登志 堀川大輔 穴戸拓樹 佐野太郎	H25. 5. 2	H27. 4. 10 特許第5725627号	大阪府立環境農林水産 総合研究所 鳥取大学 農業・食品産業技術総合 研究機構 大日本プラスチック (株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 仲 照史 廣岡健司 佐野太郎	H23. 9. 12	H29. 7. 28 特許第6179915号	産業技術総合研究所 農業・食品産業技術総合 研究機構 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)

品種名	育成者権者	登録年月日	登録番号
アスカルビー	奈良県	H12. 2. 4	7651号
古都華	奈良県	H23. 10. 5	21164号
春日の紅	奈良県	H25. 3. 6	22340号
千都の舞	奈良県	H28. 3. 1	24776号
千都の風	奈良県	H28. 3. 7	24876号
千都の恋	奈良県	H29. 3. 1	25768号
千都の粋	奈良県	H29. 3. 1	25769号
春日の鈴音	奈良県	H29. 3. 28	25914号
HC3-6-10-11	奈良県	H29. 4. 25	25973号
春日W1	奈良県	H30. 10. 10	27042号
春日Y1	奈良県	H30. 10. 10	27043号
春日Y2	奈良県	出願H31. 2. 12	出願番号33680号

5. 平成30年度 研究成果情報 (2019.3)

No.	推進部会	成果情報名	科名	研究者
1	野菜	カプシノイドを含有し、良食味なトウガラシの新品種「HC3-6-10-11」	育種科	西本登志・浅尾浩史・佐野太郎・安川人央・皆巳大輔・東井君枝・矢奥泰章
2	野菜	イチゴの新たな花粉媒介昆虫としてのヒロズキンバエの利用	育種科	西本登志・東井君枝

6. 学会・研究会誌への投稿等

著者名	タイトル	種類	学会・研究会誌名	巻号：頁	発表年月
今村剛士	イチゴに寄生するアブラムシ類に対するエトキサゾールの防除効果	短報	関西病虫害研究会報	60:125-126	2018.5
今村剛士	奈良県におけるイチゴに寄生するカンザワハダニの薬剤感受性	短報	関西病虫害研究会報	60:127-128	2018.5
今村剛士・角川由加	奈良県におけるキクに寄生するナミハダニ黄緑型の薬剤感受性	短報	関西病虫害研究会報	60:129-130	2018.5
井村岳男	奈良県の露地キクから採集したオオタバコガ幼虫に対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫害研究会報	60:135-136	2018.5
井村岳男	奈良県の露地キクから採集したミカンキイロアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫害研究会報	60:137-138	2018.5
神川 諭・井村岳男	Reduction of sooty mold damage through biocontrol of the greenhouse whitefly <i>Trialeurodes vaporariorum</i> (Hemiptera: Aleyrodidae) using selective insecticides in tomato cultivation greenhouses	原著	Applied Entomology and Zoology	53(3):395-402	2018.8
西本登志・浅尾浩史・佐野太郎・安川人央・皆巳大輔・東井君枝・矢奥泰章	カプシノイドを含有するトウガラシの新品種‘HC3-6-10-11’ (<i>Capsicum annuum</i>) の育成とその特性	原著	園芸学研究	17:483-489	2018.10
森下星子・辻 章宏・杉山高世・池田利秀	硫安による出穂10日後の窒素施用が小麦‘ふくはるか’の手延べ素麺加工適性に及ぼす影響	原著	作物研究	63:1-8	2018.12.10

7. 学会・研究会、シンポジウム等での発表・講演

学会・研究会(口頭発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
芳田侃大	イチゴうどんこ病に対する各種薬剤の防除効果と発病の品種間差異	第100回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報60:168	2018. 5. 18
浅野峻介	音声入力の利用による発病調査の省力化	第100回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報60:169	2018. 5. 18
西川 学	奈良県における堆肥中のクロピラリド濃度実態について	日本農薬学会第43回大会	講演要旨：P148	2018. 5. 27
石川亜希・濱崎貞弘	カキの糖蜜漬け加工に関する研究	日本食品保蔵科学会	講演要旨：45	2018. 6. 23
西川 学	堆肥簡易分析装置と化学分析の比較	近畿土壌肥料研究協議会第37回研究会	第37回研究会資料	2018. 7. 27
西野精二	農作業向け汎用電動運搬機とパワードウェアの開発	第9回東アジア地方政府会合「農林漁業分科会」		2018. 9. 3
佐野太郎・木矢博之・米田祥二	播種時期がコオニタビラコの実果の出芽率に及ぼす影響	平成30年度園芸学会近畿支部大阪大会		2018. 9. 7
大谷正孝	ボウフウの育苗方法と播種期の検討	園芸学会平成30年度秋季大会	園学研17別2, '18:276	2018. 9. 22
西本登志	花粉媒介昆虫としてのヒロズキンバエがイチゴ栽培品種の奇形果発生に及ぼす影響	園芸学会平成30年度秋季大会	園学研17別2:427	2018. 9. 23
芳田侃大	昆虫病原性糸状菌製剤によるイチゴうどんこ病およびイチゴ萎黄病の防除効果	平成30年度日本植物病理学会関西支部会	講演要旨：P56	2018. 9. 27
浅野峻介	メッシュ農業気象データを活用したキク白さび病菌の感染リスク評価	平成30年度日本植物病理学会関西支部会	講演要旨：P51	2018. 9. 27
浅野峻介	ダリアのウイルス・ウイロイド病の診断と防除	日本植物病理学会関西支部会 若手の会	—	2018. 9. 28
西川 学	精製効果が高く、溶媒の減圧留去中の突沸を防いだGC-MSによる茶中の残留農薬の多成分分析法	第41回残留農薬分析研究会	講演要旨：P171-175	2018. 10. 11-12
津田映子	鶏糞堆肥を利用した有機質液肥利用技術の実証	近畿土壌肥料研究協議会第39回総会	第39回総会資料	2018. 11. 2
浅野峻介	奈良県の試験成果・現地事例について	キク白さび病防除体系確立に係わる検討会	—	2018. 11. 2
井村岳男	奈良県の露地ナス生産における天敵温存植物を活用した害虫防除	第28回天敵利用研究会（シンポジウム）	講演要旨：3	2018. 11. 19
脇坂 勝	ドラムドライ製法による粉末茶原料加工特性	イノベーション創出強化研究推進事業成果発表会(26099C)	講演要旨集:5	2018. 11. 19
脇坂 勝	ドラムドライヤーを用いた粉末茶原料加工方法の検討	日本茶業学会	茶業研究報告126(別冊):51	2018. 11. 20
西本登志	イチゴの機能性および嗜好性成分の品種間差と季節変動	日本家政学会関西支部	講演要旨:	2018. 11. 24
西本登志	イチゴ栽培でのヒロズキンバエ利用に関する共同研究、3年間の成果！	日本マゴットセラピー症例検討会	プログラム・抄録集:3	2018. 12. 1
大谷正孝	除草機を用いたヤマトトウキの雑草管理について	近畿雑草研究会	近畿雑草研究会ニュースレター	2018. 12. 8
浅野峻介	抵抗性育種によるキク矮化病の防除 ～抵抗性中間母本の作出を目指して～	生態と防除研究会 第6回研究集会	講演要旨：P4-9	2018. 12. 17
杉村輝彦	奈良県のカキに発生するフタモンマダラメイガの発生状況と防除対策	落葉果樹研究会	資料:4	2019. 2. 5
市川胤記	カキボット栽培樹の果実表面の凹みと果肉内褐斑に及ぼす高温と灌水の影響	落葉果樹研究会	資料:73-76	2019. 2. 6
浅野峻介	シクラメンにおけるキク茎えそウイルス感染の初報告	平成31年度日本植物病理学会大会	講演要旨：P118	2019. 3. 18
芳田侃大	奈良県におけるCf-9抵抗性品種でのトマト葉かび病の発生と各種薬剤の防除効果	平成32年度日本植物病理学会大会	講演要旨：P79	2019. 3. 19

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
佐野太郎・市川胤記・米田祥二・安藤正明・虎太有里・木矢博之・森下星子・津田映子・藤田奈都・西野精二	アシストスーツの着用が小ギク定植作業における作業時間および作業前後の主観的疲労感の差に及ぼす影響	日本農作業学会平成31年度春季大会		2019. 3. 22
大谷正孝	ヤマトトウキにおける雑草発生量の低減	園芸学会平成31年度春季大会	園学研18別1, '19:160	2019. 3. 23
西本登志・浅尾浩史・佐野太郎・安川人央・皆巳大輔・東井君枝・矢奥泰章	カプシノイドを含有するトウガラシの新品種‘HC3-6-10-11’ (Capusicm annuum) の育成とその特性	園芸学会平成32年度春季大会	園学研17別1:202	2019. 3. 25
西本登志・東井君枝	宅配輸送後の保温温度及び低温遭遇が交配用ヒロズキンバエの羽化に及ぼす影響	園芸学会平成33年度春季大会	園学研17別1:337	2019. 3. 25
西本登志	低温寡日照地域のイチゴ栽培における補完ポリネーターとしてのヒロズキンバエの効果	園芸学会平成34年度春季大会	園学研17別1:338	2019. 3. 25
山口貴大	促成イチゴ栽培における防除体系の違いがナミハダニ黄緑型の薬剤感受性に及ぼす影響	第63回日本応用動物昆虫学会大会	講演要旨：40	2019. 3. 26
井村岳男	奈良県の露地エダマメ栽培における緑豆すき込み法と黒マルチ被覆の併用によるダイズシストセンチュウ対策	第63回日本応用動物昆虫学会大会	講演要旨：22	2019. 3. 27

学会・研究会(ポスター発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
市川胤記	ポット栽培したカキ樹の果実表面のへこみと果肉内褐斑に及ぼす高温と灌水の影響ーハウス柿の品質向上に向けて	平成30年度近畿地域マッチングフォーラム	資料:82	2018. 9. 5
米田健一・浅尾浩史・上田直也	トウキ (<i>Angelica acutiloba</i>) におけるRT-PCRによる定植前抽苔予測の検討	日本生薬学会第65回年会	講演要旨:112	2018. 9. 16
小林甫・大谷正孝・杉村輝彦	シヤクヤク斑葉病に対する数種殺菌剤の防除効果及び固着性展着剤加用効果の検討	日本生薬学会第65回年会	講演要旨:108	2018. 9. 16
虎太有里・浅野峻介・仲照史・芳田侃大・印田清秀・松下陽介	キク矮化ウイルス抵抗性小ギク品種の交配後代からの抵抗性中間母本の作出	園芸学会平成30年度秋季大会	園学研17別2:524	2018. 9. 23
杉村輝彦・上田直也・市川胤記	カキ‘甲州百目’の幼苗接ぎ木苗の生育に及ぼす肥効調節型肥料施用の影響	園芸学会平成30年度秋季大会	園学研17別2:408	2018. 9. 23
米田健一	薬用作物 (<i>Angelica acutiloba</i>) の葉収穫部位が根重に及ぼす影響	園芸学会平成30年度秋季大会	園学研17別2:507	2018. 9. 23
米田健一	トウキのマルチ栽培における植穴の籾殻被覆による雑草抑制	薬用植物栽培研究会 第1回研究総会	講演要旨:29	2018. 12. 8
佐野太郎・浅野峻介・木矢博之・米田祥二・安藤正明	奈良県農業研究開発センターが保有するスイカ系統における炭疽病抵抗性の評価	園芸学会平成31年度春季大会		2019. 3. 24

8. 著書・雑誌・新聞・資料等への掲載、イベント展示、報道発表、テレビ・ラジオ報道

(著書・雑誌)

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
杉村輝彦	4～6月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第300号:36-39	2018. 4
小林甫	中国の生薬産地を訪ねて	寧楽	奈良県薬剤師会	175号:10	2018. 4
井村岳男	春夏野菜主要病虫害防除のポイント 虫害	全国農業新聞	全国農業新聞	第3061号：7	2018. 4. 6
西本登志	大和の伝統野菜	会報「花」	(一社) フラワーズサイエティ	第423号	2018. 6. 15
杉村輝彦	7～9月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第301号:34-36	2018. 7
井村岳男	秋冬野菜主要病虫害防除のポイント 虫害	全国農業新聞	全国農業新聞	第3065号：10	2018. 8. 10
西本登志	イチゴの品種「古都華」の育成・普及裏話	JATAFFジャーナル	農林水産食品産業技術振興協会	第6巻第9号	2018. 9. 1
杉村輝彦	10～12月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第302号:24-26	2018. 10
米田健一	薬用作物ヤマトウキの秋まき冬期保温による短期育苗	施設と園芸	日本施設園芸協会	183号:13	2018. 10
井村岳男	施設園芸作物の病虫害防除 害虫	日本農業新聞	日本農業新聞	第19854号：4-5	2018. 10. 25
浅野峻介	施設園芸作物の病虫害防除 病害	日本農業新聞	日本農業新聞	第19854号：4	2018. 10. 25
杉村輝彦	奈良県におけるカキ病害の発生動向と防除対策	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol173(11):14-17	2018. 11
市川胤記	果樹園管理のポイント カキ	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol174(1):115-117	2019. 1
杉村輝彦	1～3月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第303号:41-44	2019. 1
岡山彩子	新しい柿加工品「柿糖蜜漬け」の普及に向けた課題と可能性	農業経営通信	農研機構中央農業研究センター	第274号：11頁	2019. 1. 1
國本佳範	ハダニ防除ハンドブック	単行本	農文協	130頁	2019. 1. 15
今村剛士	ハダニ防除ハンドブック	単行本	農文協	130頁	2019. 1. 15
谷河明日香	輸出に向けた茶生産方法について	茶やまと	奈良県茶生産青年協議会	第67号	2019. 2
脇坂 勝	(7) ドラムドライ製法	日本茶業の活性化に資するチャ品種育成とその栽培加工マニュアル	農食事業26099 コンソーシアム	1：33～34	2019. 2
市川胤記	果樹園管理のポイント カキ	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol174(3):95-97	2019. 3
井村岳男	採種スイカにおける害虫発生状況と防除対策	植物防疫	一社) 日本植物防疫協会	第73巻3号：2-5	2019. 3. 1
浅野峻介	ウイルス・ウイロイド病の診断と防除	日本ダリア會會報	日本ダリア會	第15号：9-11	2019. 3. 1

(イベント展示)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	イベント名	発表年月日
杉村輝彦、岡山彩子、北條雅也	「柿のパワーを最大限に！美味しく、美しく、そして健康に」～奈良県農業研究開発センター研究成果～	奈良まほろば館イベント	2018. 10. 18-26
西本登志、平岡美紀、嶋岡龍平、小林甫	研究成果の事業化、新たな共同研究シーズの発見	アグリビジネス創出フェア2018	2018. 10. 20-22
平岡美紀・岡山彩子	柿の販売、センター等のPR	第8回さくらい農・商工ふれあいフェスタ	2018. 11. 10
各科・課・研究センター	研究成果の発表・成果発表会の紹介(ポスターによる)	県庁屋上展示	2019. 1. 28-2. 1

(報道発表)

担当	タイトル	発表年月日
研究企画推進課	農業研究開発センターニュース154号を発行しました	2018. 7. 5
研究企画推進課	農業研究開発センター公開デー開催！	2018. 10. 1
果樹・薬草研究センター	「果樹・薬草研究センター開放デー」開催	2018. 10. 31
研究企画推進課	農業研究開発センターニュース155号を発行	2018. 1. 9
研究企画推進課	農業研究開発センター「成果発表会」を開催	2019. 1. 18
研究企画推進課	「第2期奈良県農業研究開発中期運営方針(案)」に対するご意見を募集します	2019. 3. 1

(新聞)

テーマ	タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	掲載日
イチジクグラッセ	「いちじくグラッセ」商品化 - 甘過ぎずさっぱり／大和郡山「ひかり園のぞみ」	奈良新聞	2018. 4. 7
イチジクグラッセ	おいしさぎゅっと 知的障害者施設が開発 大和郡山市の特産品使い	毎日新聞	2018. 4. 11
イチジクグラッセ	「いちじくグラッセ」 奈良・大和郡山の新たな名物に福祉施設が開発	産経新聞	2018. 6. 5
トウガラシ 'HC3-6-10-11'	からくない?! だけど食べればやっぱり・・・ 突然生まれたトウガラシ新タイプ	日本農業新聞	2018. 6. 16
加温機排気を利用する二酸化炭素施用機	DME加温でCO2施用	日本農業新聞	2018. 7. 4
トウガラシ 'HC3-6-10-11'	県育成の新トウガラシ「やまと甘なんばん」 収量増へ力合わせて	農業共済新聞	2018. 8. 29
トウガラシ 'HC3-6-10-11'	新トウガラシを特産に	農業共済新聞	2018. 9. 5
ビーフライ (ヒロズキンバエ)	授粉昆虫ビーフライ有望 イチゴ奇形果減少	日本農業新聞	2018. 11. 11
天敵温存植物	天敵利用研究成果を紹介 温存植物が威力 コストと労力を削減	日本農業新聞	2018. 11. 20
イチゴ '古都華' 'アスカルビー'	厳選イチゴのスイーツ	奈良新聞	2018. 12. 19
イチゴ '古都華'	まるで宝石 天理	読売新聞	2018. 12. 24
トウガラシ 'HC3-6-10-11'	マイルド唐辛子 特産野菜目指せ 代謝促進に効果／料理の用途豊富	読売新聞	2018. 12. 29
イチゴ新品種育成	甘い衝撃 全国の「華」 奈良イチゴ「古都華」開発26年 「病弱」ネック 重ねた研究実る	朝日新聞	2019. 3. 2

(奈良新聞「農を楽しむ」)

担当者	タイトル	所属	掲載日
芳田 侃大	植物の細菌病	環境科	2018. 4. 1
平岡 美紀	ふきだわら	研究企画推進課	2018. 5. 6
嶋岡 龍平	夏野菜オクラ	育種科	2018. 6. 3
津田 映子	有機物が温暖化を防ぐ	環境科	2018. 7. 1
廣岡 健司	植物の色素	加工科	2018. 8. 5
谷河 明日香	喫茶の今昔	大和茶研究センター	2018. 9. 2
小林 甫	ミカンの皮の意外な力	果樹・薬草研究センター	2018. 10. 7
印田 清秀	繊細で美しいミス菊	育種科	2018. 11. 4
山口 貴大	天敵を使った害虫対策	環境科	2018. 12. 2
安藤 正明	お正月の祝だいこん	大和野菜研究センター	2019. 1. 7
森岡 正	手作りジャムを楽しむ	加工科	2019. 2. 4
上田 直也	甘柿の種は甘柿か？	果樹・薬草研究センター	2019. 3. 4

(テレビ・ラジオ)

発表者	番組・タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	発表年月日
石川亜希	大和郡山市の農産物を活かした新しい加工品づくり	奈良テレビ放送	2018. 4. 18
杉村輝彦・上田直也	よじごじDays「〇〇が好きすぎる人」8年間同じものを食べ続ける!?	テレビ東京	2018. 5. 17
西本登志	ワールドビジネスサテライト「THE行列」こだわりのイチゴスイーツ!	テレビ東京	2018. 6. 22
米田健一	「かんさい情報ネットten」内「奈良”幻の薬草”復活へ」	読売テレビ	2018. 7. 4
西本登志	奈良ナビ・ニュースほっと関西・まるっと!みえ「ことしにかける」	NHK奈良放送局	2019. 1. 7 (奈良放送局)、 1. 9 (総合大阪)、 1. 21 (津放送局)
西本登志	eo光チャンネル「たむらけんじのぶっちゃ〜けBar」	eo光チャンネル	2019. 2. 4
西本登志	NHKあさイチ	NHK大阪放送局	2019. 2. 19

9. 平成30年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

平成31年1月22日開催 やまと会議室

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき平成26年度から5年間に実施した、4つの大課題、12の中課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

石田裕彦	奈良県指導農業士会会長
重岡 成	近畿大学 前農学部長
鶴木千里	前奈良県消費生活審議会委員
山本 尚	奈良県農林部長
山下理恵子	奈良県指導農業士会前会長

各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	優良品種の育成	ゲノム育種等による優良品種の育成	3.8	3.1	3.3	10.2
		マーカー遺伝子の同定は評価する。系統選抜で得られた開花しない3株でのこの遺伝子の発現の有無を確認すること、そして実際に開花しないことが根の生育に大きく影響することを明確にすることを期待する。研究の継続により優良な株が出てきたことは評価できる。安定した育種に繋がって欲しい。				
	生薬以外への利用に向けた生産技術の開発	トウキ葉の安定生産技術の開発	3.7	3.3	3.1	10.1
		新しい特産野菜となることを期待。トウキの根と葉の収量との相関性が明確に示されたとは思えない。冬期における安定的な収穫のための植物工場の栽培については、コスト面も含めて更なる検討が必要であろう。				
	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	3.7	3.0	3.0	9.7
		宇陀地域で栽培実績が上がることを期待。3品目について、各々具体的に何を最終目標として、どこまで安定的多収量を目指すのかを明確にし、栽培のマニュアル化を示すべきである。				
優良品種の育成	商品性の高い新たなイチゴ品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	4.3	4.0	4.1	12.4
		奈良イチゴが全国区になることを期待。順調に系統選抜が出来ていることは評価に値する。高級品については、それらの生産コストおよび販売先の拡大などが今後の問題と思われる。育種は時間がかかるものだが、H25から始めてここまでの成果は驚いた。現地試験と生産者の評価が楽しみ。ケーキ店向きに有利に販売できると良いが、ケーキ店＝加工用で安い方が良いというようにならないか心配。				
	産地間競争に打ち勝つキク品種の育成	気象変動に左右されない安定した開花特性を持つ小ギク品種の育成	4.4	4.2	3.6	12.2
		端境期の安定供給と需要拡大での取り組みは、順調に推移していると思われる。8月及び5月での品種登録、その後の育成そして県産としての普及に努めてほしい。安定生産につながる技術で、これからの普及に期待する。				
	遺伝子解析技術を活用した病害抵抗性品種の育成	3.8	3.2	3.2	10.2	
		抵抗性の評価法の確立は評価できる。抵抗性系統の育成・選抜をより積極的に押し進めるべきである。産地として安定して生産し続けられる技術の1つとして抵抗性育種は大切である。				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
優良品種 の育成	甘柿のない時期に出荷できる甘柿品種の育成	交配による新品種候補の作出と、遺伝子解析による10月下旬～11月上旬に出荷できる甘柿の早期選抜	4.2	3.0	3.0	10.2
		奈良の柿のブランド力アップに期待。得られた2品種の有望株の育成は、可能となりつつあるが、これらの商品として価値を、どこまで明確にできるかが鍵となる。奈良の柿は自慢できる産物なので、和歌山に負けないで頑張りたい。				
	遺伝資源の保存と活用	奈良オンリーワン酒米品種の育成	3.8	3.0	3.2	10.0
		系統選抜までは評価できるが、これらの系統が醸造に真に適しているかが、本研究の成果に大きく影響する。				
		奈良に歴史にゆかりのある遺伝資源の保存と活用	4.2	3.5	3.4	11.1
奈良特産、大和野菜などの遺伝資源の保存と活用は、地域活性および地産地消の立場からも重要であるが、得られた解析データを、いかに迅速かつ効率的に公表し、それらを有効活用するシステム作りが急務である。						
加工商品 の開発と 加工技術 の研究	イチジクなど奈良オンリーワン加工品の開発	奈良彩りドレッシングの開発	3.9	3.8	3.2	10.9
		彩りドレッシングがレストラン等で活用されることを期待。クロロフィルとアントシアニンの色調は、魅力あるバランスとなっている。今後は保存の環境（温度、明暗など）、そして確固たる商品化に向けての努力を期待する。5℃で保存となると常温で保存できるものとは違った視点での商品の位置づけが必要。				
	機能性成分に着目した新商品の開発	糖の吸収を抑える柿タンニンを活かした「特定保健用食品」等新商品の開発	3.9	3.0	3.0	9.9
		商品としての実用化は評価できる。我々が納得できる、柿タンニンの機能性の更なる研究成果（科学的根拠など）を期待する。「特保」に至っていないので達成状況の評価は低いかもしれないが、柿の健康イメージのアップに繋がっている点は評価できる。				
		食品添加用粉末茶とそれを用いた機能性食品の開発	3.5	3.0	2.8	9.3
カフェインの低減化、メチル化カテキン含有の開発は、ある程度成果が得られたが、開発・利用の観点からは、インパクトの弱い成果となった。						
革新的な 生産技術 の開発	脱化学農薬！天敵利用技術の開発	地域や作物に応じた土着天敵活用技術の開発	3.7	2.4	2.4	8.5
		オオタバコガとクモ頭数の因果関係が認められなかったのは残念であるが、可能であればクモ類も含めた他の天敵の調査も、さらに検討がされることを期待する。必要性は評価するが、技術という所には遠いと感じる。農薬も含めた有効な防除体系を考えるべき。農薬を減らせるのは良いことだと思う。				
	耕作放棄地の再生と利活用技術の開発	土質に合った作物選択と水分管理技術の確立	3.7	3.0	3.0	9.7
		耕作放棄地の再生のための作物栽培試験は、昨年からの継続として順調に推移しているが、迅速かつ適正なマニュアル化と公表が急務である。特に新規就農者や他の農家の土地を借りる場合など、分からない点が多く、この課題の情報は必要であり、評価したい。身近にも新規に田を借りて野菜を作ろうとする話があるがうまくいかないことがあると聞いているので期待している。				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
革新的な 生産技術 の開発	奈良特産品の 高品質・安定生産 技術の開発	チャの早期成園化技術の開発	4.0	3.7	3.1	10.8
		最終年度として、成園化の3年間の短縮は評価に値するが、得られた成果に基づくマニュアル化が急務である。改植は必要だと思うので、少しでも早く成園になるような技術として普及していただきたい。				
		日持ちの保証ができる「奈良の花」品質向上技術の開発	3.8	3.2	3.2	10.2
		終了年度として、花きの日持ち効果、ホルモン剤、エチレン阻害などの効果は評価できるが、これもそれらの成果を公表・マニュアル化することが急務である。				
	奈良にふさわしいパ イプハウス雪害対策 技術の開発	雪下ろし技術の開発	3.8	3.1	3.3	10.2
		マニュアル化による、実質的な普及効果を期待する。特別な物ではない資材を利用している技術で、すぐに実用化できると思う。普及に繋げて欲しい。				
	脱化学農薬！ 微生物 利用技術の開発	土壌への定着性を高めた微生物による土壌病害防除技術の開発	3.4	3.0	3.2	9.6
		この1年での成果としては、定植時1回で効果が見られることは興味ある結果である。継続研究として、納豆菌の微生物農薬としての利用を確固たるものとするためには、より魅力ある、明確な成果を期待する。連作せざるを得ない場合、土壌病害は深刻な問題。有効な防除法の確立に期待する。				
	女性に優しい農業 機械の開発	女性に優しい農業機械の開発	4.0	3.2	3.2	10.4
		女性の就農者支援の視点からそれぞれの成果が順調に推移しているようであるが、特にアシストスーツでは、最終的なコスト面も重要な問題となる。体が弱ってきて、女性一人でも農業ができるよう、期待している。防除が簡単になれば長く農業ができる。アシストスーツも安価になって、進歩して欲しい。				

10. 共同研究・受託研究(外部資金研究)の実施状況

研究課題名	共同研究機関	委託事業(資金)名	委託機関(契約先)	担当科・研究センター	研究期間
ナミハダニの薬剤抵抗性メカニズムの解明と管理技術の開発	農研機構生物研、京都大学、静岡県	ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構生物研	環境科	H26～30
実需者ニーズに対応した茶品種の育成とその栽培・加工・利用技術の開発	農研機構果茶研、宮崎県、埼玉県、静岡県、滋賀県	イノベーション創出強化研究推進事業(農水省)	農林水産省→農研機構果茶研	大和茶研究センター	H26～30
キクウイルス性矮化病の罹病性検定技術の開発と抵抗性品種の選抜	農研機構野花研、宮城県、群馬県、秋田県ほか	実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構野花研	環境科・育種科	H27～31
日持ち性等に優れた性質を持つ新規有望品目の育成	農研機構野花研、秋田県、高知県	実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構野花研	育種科	H27～31
多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発(ヤマトトウキの雑草管理軽劣化技術の開発)	農研機構中央農研(株)キューホー	多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構中央農研	大和野菜研究センター	H27～31
冬季寡日照地域のイチゴ栽培におけるミツバチの補完ポリネーターとしてのビーフライ(ヒロズキンバエ)の利用	(株)ジャパンマゴットカンパニー、岡山大学、島根県、農研機構西日本農研	革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)	農研機構生研支援センター	育種科	H28～30
都市近郊エダマメ栽培体系に適応したダイズシストセンチュウの生物的防除法の開発	東京農工大学、農研機構中央農研、千葉県、神奈川県、大阪府環農水研、(株)環境管理センター	革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)	農研機構生研支援センター→東京農工大	環境科	H28～30
極端化する気象災害に対応する新たなハウス構造の開発	徳農種苗(株)奈良高専	(民間委託試験)	徳農種苗(株)	大和野菜研究センター	H30
漢方薬原料の地域ブランド化を目指した高収益複合経営モデルの開発	農研機構西日本農研、医薬健栄研、岩手県、三重県、山口県	薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発(農水省委託プロ)	農林水産省→農研機構西日本農研	果樹・薬草研究センター	H28～32
イチゴの育種素材の検討	—	育成系統評価試験(イチゴ)	農林水産省→農研機構野菜研	育種科	H23～
茶樹の新規育成系統における産地適性の検討	—	茶育種研究に係る系統適応性・特性検定試験	農林水産省→農研機構果茶研	大和茶研究センター	H27～
農地管理実態調査	—	農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	農水省近畿農政局	環境科	H25～
河川中農薬モニタリング調査	—	農薬残留対策総合調査	環境省→(株)エスコ	環境科	H26～
微生物殺虫剤を用いた野菜重要病害虫のデュアルコントロール技術の開発	農研機構野花研、岐阜県、長野県、三重県、アリストライフサイエンスほか	イノベーション創出強化研究推進事業(農水省)	農林水産省→農研機構野花研	環境科	H29～31
低コスト・強靱化を実現する建設足場資材を利用した園芸用ハウスの開発	農研機構西日本農研、岡山大学、広島県、島根県、静岡県、和歌山県、香川県、(株)果実堂	革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)	生研センター→農研機構西日本農研	育種科	H29～31
輸出相手国が侵入を警戒する検疫有害動植物の発生状況調査	農研機構中央農研、全国都道府県病害虫防除所等	輸出植物検疫協議の迅速化委託事業	農林水産省→農研機構中央農研	環境科	H29～30
鉢花・花壇苗の品質評価基準の作成と品質低下要因の解明(花き日持ち保証に対応した切り花品質管理技術の改善と実証)	農研機構野花研ほか	花き日持ち性向上対策実証事業(国産花きイノベーション推進事業のうち)	農林水産省→MPSジャパン	育種科	H30

研究課題名	共同研究機関	委託事業 (資金) 名	委託機関 (契約先)	担当科・ 研究センター	研究 期間
飛ばないテントウムシを用いた採種スイカでの病虫害防除体系の実証	農研機構西日本農研、大阪府、岡山県、佐賀大学、アグリ総研	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	農林水産省→農研機構西日本農研	環境科	H29～30
ダイズ品質・収量の空間変動を是正し実需者のニーズに応える可変量管理の実証	京都大学、石川県立大学、山口県	科学研究費助成事業	(独)日本学術振興会→京都大学	育種科	H29～31
傾斜地における安全作業をサポートする電動式・移動式作業台車兼運搬車の開発	三晃精機(株) 奈良高専	イノベーション強化事業(農水省) 開発研究ステージ	農林水産省→三晃精機(株)	大和野菜研究センター	H30～32
ドローンの利用によるカキ傾斜地における防除の省力化	農研機構果茶研、鹿児島県、愛媛県、和歌山県、三重県、静岡県、エンルート、丸山製作所、エスコ、NEC、各県のJAや生産者	ドローンやセンシング技術を活用した果樹の病虫害防除管理効率化技術の開発(農水省戦略プロ)	農林水産省→農研機構	果樹・薬草研究センター	H30～34